

..... 会 告

秋季公開講演会のお知らせ

本協会では、地学の成果の普及と振興をはかるため、広く一般の方々にも興味をもち理解を深めていただける内容の公開講演会を企画いたしました。第一線の研究者から、今もっともホットな話題をわかりやすく解説していただきます。

開催日時：2004年10月16日(土)14:00～17:00

会場：浜離宮朝日ホール(中央区築地5-3-2 地下鉄大江戸線築地市場駅A2出口から徒歩0分)

後援：朝日新聞・日本地理学会・日本雪氷学会等を予定

テーマ：「南極大陸の氷から地球環境の過去をさぐる」

国立極地研究所が中心になって、1995年から南極大陸の「ドームふじ」で、深さ2500mを超える氷床コアの掘削が行われています。過去30万年間以上におよぶ地球環境の過去を、どのようにして調べるのか、を紹介します。氷期と間氷期の気候変動に関する研究の現状についても解説します。

講演：藤井理行(国立極地研究所教授)

司会・解説：三上岳彦(東京都立大学教授) 質疑応答の時間も設けます。

参加費：無料

参加資格：子供から大人まで地学に興味をお持ちの方。

申し込み：往復はがきに「往信：氏名・住所・年齢。返信：返信先住所氏名」をご記入の上、下記あてお申し込みください。

定員200名(先着順受付)

申し込み期限：9月30日(木)消印有効

申し込み先：〒102-0084 千代田区二番町12-2 東京地学協会公開講演会係 あて

地学クラブのお知らせ

講演終了後、1時間ほど講演者を囲み懇談の時間を設けております。お気軽にご参加ください。

・9月17日(金)14:00～15:30

「資源探査における衛星リモートセンシング技術の進歩」

俣野米治(日鉱探開(株)取締役探査事業部長)

近年、非鉄金属資源探査において衛星リモートセンシング技術は必要不可欠な探査手段(技術)となってきた。これまでの地形図の代用または写真(画像)から地質を解読するといった利用法から、地形・地質情報をデータから直接抽出し探査ターゲット絞り込みに資するといった利用法に変わってきている。本技術の開発状況を紹介する。

・10月は講演会となります。

海外見学旅行「インド洋からビクトリア湖まで、リフトバレー横断の旅」

内 容：

東アフリカ、ケニア共和国のインド洋岸の港町モンバサから、内陸のアフリカ最大の湖、ビクトリア湖まで、約八百キロメートルを東西に横断する旅である。アフリカ大陸の典型的な地形・地質と、サバンナ植生を中心とする自然景観、そして約二千メートルの高度変化も含めて移り変わる土地利用変化と人々の生活など、約八百キロメートルをほぼ東西方向に横断する旅である。

この間、アフリカ大陸を引き裂く大地溝帯、リフトバレーの典型的な断層崖を横断する。リフトバレーの底には、ナイバシャ湖やナクル湖などの湖と考古遺跡を包含する湖岸段丘が発達し、湖の間には活動歴の新しいものも含む新旧の火山群とその堆積物が分布する。

インド洋岸には、裾礁タイプのサンゴ礁が発達し、イスラム文化も見られる沿岸地域は隆起サンゴ礁の海岸段丘になっている。その内陸側には第三紀層および中生層からなる台地や丘陵が発達する。さらに内陸へ向かって徐々に高度をあげつつ、おもに先カンブリア紀の基盤岩類を母岩とする波状地形であるベディプレーンがひろがる地域となる。多くの人々が想像する、サバンナと野生動物、そして起伏の緩やかな「アフリカらしい風景」の地域である。

そして高度千五百メートル付近に達すると首都ナイロビがある。ここから先述のリフトバレーを横断し、ビクトリア湖へ向う。途中広大なお茶のプランテーションで有名なケリチョを経由して、ビクトリア湖岸の町キスムに達する。

アフリカ大陸を代表する地形・地質、サバンナをはじめとする自然景観、植民地時代の影響を残しながらも自立するケニアの姿を、牧畜民の放牧風景、あるいは農地や牧場、さらに工場など、さまざまな土地利用景観を通して考え、人類起源の古から、民族問題、地球環境問題まで地球上で生起する諸現象に思いを馳せる壮大な横断旅行である。

旅行期間：2005年3月1日（火）～3月11日（金）10泊11日

旅行行程：

（注：行程の詳細はまだ変更になることがあります。また、ホテルも変更の可能性あります。）

3月1日 成田発（機中泊）

2日 ナイロビ経由モンバサ着（モンバサ・ホワイトサンズホテル泊）

3日 モンバサから北のマリンディ間、隆起サンゴ礁ほか史跡、リゾート開発など観察（モンバサ・ホワイトサンズホテル泊）

4日 モンバサからツァボ西国立公園、サバンナ景観と野生動物の観察（キラグニロッジ）

5日 ツァボ西国立公園から波状する緩斜面のベディメント地形と島状丘（インゼルベルグ）地形、赤色風化露岩地形ヤツプラトー（大規模な地形の逆転）（ナイロビ・フェアビューホテル泊）

6日 ナイロビ発、博物館見学後、リフトバレー観察（ナクル・メリカホテル）

7日 ナクル発、ナクル湖および周辺火山観察後、ビクトリア湖岸（キスム・サンセットホテル）

8日 キスム発、ケリチョの茶園、ナイロビ着（ナイロビ・フェアビューホテル泊）

9日 ナイロビ発

10日 アムステルダム着 / 発

11日 成田着

企画主催 : (社) 東京地学協会

案内者 : 堀 信行 (東京都立大学大学院理学研究科教授)

Tel: 0426 77 0111 (内線 3874), 0426 77 2604 (研究室直通),

E-mail: nhori@comp.metro-u.ac.jp

現地では、主にバスでの移動となります。また現地でのサポーターが付きます。

募集人数 : 二十数名

対象 : 地学に興味を持つ一般の方々

費用 : 約 37 万円から 40 万円の予定 (参加人数によっても変化します)

申込締切 : 2005 年 1 月 7 日 (金)

申込方法 : はがき・ファクス・E-mail に必要事項を記載してお送りください。(参加者全員分)

[記載事項] 名前・住所 (連絡先), 電話 (ファックス) 番号, E-mail, 年齢, 職業

[送付先] はがき 〒 102 0084 千代田区二番町 12 2 東京地学協会海外見学旅行係 宛

ファクス 03 3263 0257 東京地学協会海外見学旅行係 宛

e-mail: tokyogeo@geog.or.jp Subject: 海外見学旅行

・地学雑誌次号およびホームページで最新情報をお知らせしてまいります。